

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況(2012)

埼玉県で2012年に分離され衛生研究所で確認された3類感染症である腸管出血性大腸菌は86株と2011年の127株より減少しました。県内分離86株の内訳を表に示しましたが、最も多く検出された血清型は例年通りO157:H7が42株(48.8%)で、次いでO157:H-とO26:H11がそれぞれ15株(17.4%)分離されました。O157:H7の毒素型別ではVT1&2産生株が26株、VT2産生株が16株でした。分離された86株のうち26株は患者発生に伴う家族検便や給食従事者に対する定期検便で非発症者から検出されたものでした。

分離された腸管出血性大腸菌の血清型・毒素型別検出数(2012)

| 血清型 | 毒素型 | 検出数 | 血清型 | 毒素型 | 検出数 |
|---------|-------|-----|-----------|-------|-----|
| O157:H7 | VT1&2 | 26 | O103:H2 | VT1 | 1 |
| O157:H7 | VT2 | 16 | O111: H- | VT1 | 1 |
| O157:H- | VT1&2 | 6 | O121:H19 | VT2 | 1 |
| O157:H- | VT2 | 8 | O128: H2 | VT1&2 | 1 |
| O157:H- | VT1 | 1 | O145: H- | VT2 | 2 |
| O26:H11 | VT1 | 15 | O145: H- | VT1 | 1 |
| O26: H- | VT2 | 2 | O165: HUT | VT1&2 | 1 |
| O26: H- | VT1 | 1 | OUT: H- | VT1 | 1 |
| O8:H19 | VT1&2 | 1 | 合計 | | 86 |
| O91: H- | VT1 | 1 | | | |

患者の発生状況では、大きな集団発生事例はなく、PFGEによる型別でも明らかな集積性はほとんど見られませんでした。

2012年は前年と比較して分離株数が減少しました。これは焼き肉チェーン店による死者を含む多数の患者発生があった食中毒事例などを受けた衛生指導の強化や、2012年7月1日から牛生レバーの生食としての販売・提供が禁止されるなど様々な施策が一定の効果を挙げたと思われました。その反面、全国的には、北海道での浅漬けを原因とする集団発生や、加熱用生レバーの生食など、依然として提供者や消費者に対する啓発の不足が感じられる事例が発生しています。今後ともその動向を注視し、その防止に関する啓発活動を継続する必要があります。

今後とも、原因究明調査等へのご協力をお願いします。